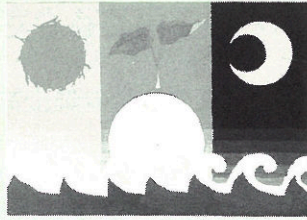
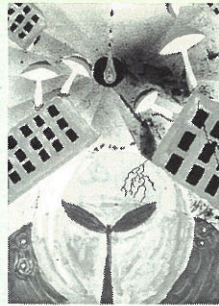




山縣 美由紀



福谷 有美



中谷 吉陽



ふるさとへ

32

前原 寿一さん
(兵庫県西宮市在住)

ぬくもり

黄波戸の前原と、畑の岡村との町内同志の結婚。一人息子も小学生時代から休みになると、リュックサックを背おって黄波戸に帰っていました。私達二人もどこに転居しても方言まる出しの言葉づかいで、生まれが田舎というのがすぐわかります。高松市に居る時、お客さんが来ました。妻が「しようゆがみてたから買ってきて」と言うものですから「みてた」とはどういう意味かと聞かれました。

阪神大震災が発生した時、よくも、生きのびることができたと思いました。毎晩夜十時家族三人で、月あかりのなか手押しポンプのある畑まで、水くみ、洗たくに出かけ田舎の生活を思い出しました。



▶ 2人のおばさん(古市の河野さん・重本さん)と妻です。

年に三〜四回黄波戸、古市に帰ります。車に荷物をいっぱいいせ、妻と二人片道五二〇キロの道のりを交替で運転します。家に帰ると休む間もなく、掃除、あいさつ廻り、お見舞いなど一週間の休みもあつという間に終わります。それでも次に帰る日が、「あと何日だ!!」と言いながらの生活。関西でも日置町出身が何人かいますので、ふるさとの話をしながら一杯やっています。人の「ぬくもり」を感じると、早く田舎に帰りたくなると思います。

日置俳壇

〈兼題 秋風〉

- のうさぎようす 農作業休める頬に秋の風 塩瀬 米江
- せいりきう 清流に立つ白鷺に秋の風 高尾 凡果
- おくじょう 屋上に病衣はためく秋の風 白石 敏江
- あきかぜ 秋風や新造船に大のほり 宮本やすの
- のた 野に佇てば四方より起こる秋の風 富田佳津美
- びじゅつかんで 美術館出てここちよき秋の風 松岡ヨシ子
- いちこう 一郷を一直線に秋の風 福山スミエ
- あき 逝きし友我も七十秋の風 木村 一路

雑詠

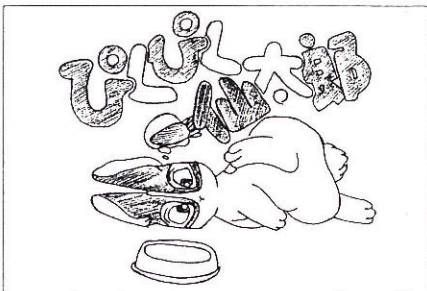
- のこむしじう 残る虫静かに生きる過疎の里 古谷 桃月
- まだう まだ熟れぬ稲穂の重み手にのせて 塩瀬 米江
- しゅうこう 出航の子を見送りぬ鱈雲 宮本やすの
- このなきをさらりと話す夜長 西村亥子代
- かな コスモスの風呼ぶ庭の検診車 高尾 凡果
- たいじゅう 体重を計る湯上り馬肥ゆる 高尾 凡果
- おさなご 幼時ポケット満たす木の実 柚花 岩門
- じゅうがつ 十月に入りても老の昼寝ぐせ 国司ハル子

筆者紹介

昭和17年生まれ。黄波戸出身。下関商業高校卒業後、昭和36年、現在の(株)ニチレイ入社。現在、(株)ニチレイ関西営業支社でご活躍中。ご家族は、妻と息子さんの三人暮らし。

☆ ふるさとへ登壇者募集中！
☆ 役場総務課まで

イラストコーナー



川野末沙貴ちゃん(小四)